

第 50 回全国高等学校総合文化祭（あきた総文 2026）に参加して

◇期 日：令和 8 年 7 月 29 日(水)～31 日(金)

◇場 所：秋田県 J A ビル・秋田県児童会館 けやきシアター（秋田市）
白神山地世界遺産センター（藤里町）

◇参加者：SS 生物部員 2 名

◇引率者：真野佳余先生（SS 生物部顧問）

初日の開会式で、秋田県実行委員会自然科学部門の生徒部門別部長より、「秋田県は豊かな水と大地に恵まれた自然あふれる県であり、こうした魅力あふれる秋田の地で総文祭を開催できることは、参加される皆様と交流と研鑽を旨とする自然科学専門部の活動を存分に体感し、深める 3 日間となるでしょう」という歓迎のお言葉をいただきました。この言葉を聞き、これから始まる同じ志を持つ全国の高校生たちとの研究発表を通じた交流や、秋田県の自然を存分に堪能する巡検研修に対する期待に胸が大きく膨らみました。

その後に行われた研究発表で、私たちは昨年度から取り組んできた「食用ウキクサでアクアポニックス」というテーマで発表を行いました。ウキクサを用いた家庭用小型アクアポニックスの提案を目的として、「魚の養殖」「植物の水耕栽培」「魚由来の窒素を植物の栄養にする」といった様々な観点から、構成システムを効率化するために行った研究の過程を発表しました。発表後の質疑応答において、他県の生徒からの質問に対しては的確に返答することができました。しかし、審査員の先生方の質問に対しては、生じた認識の齟齬を的確に修正して伝えることができず、改めて前提知識の異なる万人にわかる発表を行うことの難しさを痛感しました。



2 日目の午前中は、他県の生徒の発表を通じた交流によって、自分たちにはなかった多様な視点やアプローチに触れることができ、非常に多くの新たな気づきを得ることができました。午後は巡検研修に参加し、各コースに分かれて秋田県の自然科学についての理解を深める貴重な時間となりました。私たちは「白神山地世界遺産センター」を訪れ、日本で初めて世界自然遺産に登録された手つかずのブナの原生林が残る白神山地の豊かな生態系やその価値について、深く学ぶことができました。



3 日目の生徒交流会では、自然科学の話題だけでなく、秋田県の豆知識をクイズを通して楽しく学びながら、他県の生徒たちと和やかに交流しました。その後の記念講演では、講師の林信太郎氏が「キッチンで作る噴火現象ーそして科学の伝え方」というテーマで、恐ろしいというイメージを抱きがちな火山についての面白さや楽しさをご講演くださいました。自分自身もこれまで火山に対しては良いイメージを抱いていなかったもので、まさに目から鱗が落ちるほどの素晴らしい講演でした。

この 3 日間は本当にあっという間に過ぎていきました。私たち 3 年生はこの大会をもって引退となりますが、全国の舞台で得ることができた新たな知見や、他県の生徒たちとの親睦は、私たちにとってかけがえのない財産です。この秋田の地で培った科学的な探究心や貴重な経験を糧として、これからのそれぞれの進路における新たな学びや挑戦に活かしていくとともに、この素晴らしい経験を後輩たちにもしっかりと伝えていきたいと思っています。